

本庄早稲田の杜ミュージアム企画展
第2回本庄早稲田の杜地域連携展覧会

旧石器・縄文時代の 見玉・深谷地域

写真：右上から時計回りに
矢野橋、青柳古遺跡南溝部遺
支那24号遺（神川町）、矢
野橋、鶴門寺西山遺跡（美
里町）、矢野橋、三谷山古
遺（本庄市）、久保山遺跡、太
久保山遺跡Ⅱ、F2遺跡地区（本庄市）、
早稲田大学附属、矢野橋、太久保山遺
跡Ⅱ地区（本庄市）、早稲田大学附属
、野梨石遺、石高遺跡本地区（深谷市）、
矢野橋、早木山古遺跡遺跡山地区（本
庄市）、矢野橋、定土桑原遺跡吉田林堂
、西地区（本庄市）、朝妻尖遺跡、西香
寺古遺跡（上里町）、
青柳、新古遺跡口地区1号土坑（本庄市）

令和4年

1月4日 | 火 | ~ 3月27日 | 日 |

会場 早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター
2階情報資料室 埼玉県本庄市西富田1011 (早稲田大学93号館)

開館時間 午前9時~午後4時30分 入館料 無料

休館日 月曜日 ※休日の場合は翌日

共催 本庄市教育委員会、美里町教育委員会、神川町教育委員会、上里町教育委員会、
深谷市教育委員会、早稲田大学

本庄早稲田の杜ミュージアム
HONTO-WASEDA NO MORI MUSEUM

Website | <https://www.hwmm.jp/>
E-mail | hwmm@city.honjo.lg.jp
TEL | 0495-71-6878
FAX | 0495-71-6879



早稲田大学キャラクター
「WASEDA BEAR」



本庄市マスコット
「はにぼん」



上里町マスコット
「こむぎっち」



埼玉県深谷市
イメージキャラクター
「みっかちゃん」



美里町マスコット
「みりん」



神川町マスコット
「神しい」「なっちちゃん」

本庄市

後期旧石器～縄文時代草創期の石器(児玉条里遺跡他)

本庄市域では、現在終末期を除く後期旧石器時代におさまる遺跡が20遺跡を数える。他に後期旧石器時代終末期から縄文時代草創期にかけての彫器、削器、尖頭器や土器などが出土した遺跡が19遺跡あり、そのうち爪形文や押圧縄文の施された土器が4遺跡で確認されている。

今回後期旧石器時代から縄文時代草創期にかけての、主にナイフ形石器や尖頭器を展示している。

城内遺跡のナイフ形石器とUフレイクは、本庄市域でも比較的早い段階に報告された旧石器時代の資料である。

塚本山古墳群雷電山地区出土の尖頭器は、削器としても用いられた可能性があり、縄文時代草創期の石器と考えられる(写真1)。

児玉条里遺跡吉田林堂ノ西地区出土の尖頭器は、縄文時代草創期後半に特徴的な身が細長く茎のない形態の尖頭器である(写真2)。

旧石器時代終末期から縄文時代草創期の石器や土器のうち、とくに尖頭器などの石器類は、丘陵上に限らず、台地の縁辺や河川沿いの低位段丘、低地内の微高地上からも見つっている。

石器類はすべて遺構に伴うことなく、しかもほとんどが単独で出土した資料であり、小規模な集団での短期的な滞在あるいは居住と移動の繰り返しからなる生活を物語っている。



写真1 塚本山古墳群雷電山地区出土尖頭器



写真2 児玉条里遺跡吉田林堂ノ西地区出土尖頭器

新宮遺跡(児玉町共栄)

新宮遺跡は、女堀川の中流域左岸の本庄台地東縁に位置する縄文時代中期、古墳・奈良時代の集落遺跡である。縄文時代中期には、住居が環状をなし分布する、大規模な環状集落が形成されたことが推定されている。北東側約600m離れた古井戸遺跡、さらに北東側約900mにある将監塚遺跡も、同様に縄文時代中期の大規模な環状集落跡であり、3つの中期環状集落が近接して設営されたきわめて特異な事例である。



写真3 新宮遺跡第1-2号土坑

今回新宮遺跡D地点出土土器の中から、環状集落の前史をなす段階、縄文時代中期前半の土器様相に光を当てるとともに、環状集落の盛期、縄文時代中期後半、新宮遺跡の特徴ともいべき大型深鉢を土坑に埋置、遺棄した事例(写真3)から、5個体の大型深鉢を展示した。



写真4 新宮遺跡第34号土坑出土大型深鉢

(本庄市教育委員会 松本 完)

美里町

後期旧石器～縄文時代草創期の石器(普門寺西山遺跡他)

美里町は、埼玉県北部に位置し、北西側を生野山丘陵、浅見山丘陵に、南西側を松久丘陵に、南東側を諏訪山丘陵に囲まれた盆地状の台地、低地が、町域の中央を占めている。

後期旧石器～縄文時代草創期の遺跡は、主に丘陵部に点在する普門寺西山遺跡、甘粕山遺跡群の東山遺跡、同如来堂A～C遺跡や広木上宿遺跡などの諸遺跡である。

東山遺跡、如来堂A・B遺跡からは、ナイフ形石器、細石刃、細石刃石核や尖頭器が出土している。東山遺跡では、石器の集中部が調査されているが、石器は、主に表土下のソフトロームの薄層から分散して出土しており、単一時期の石器ブロックをとらえるには至らなかった。

また、如来堂B・C遺跡からは、小破片ではあるが、草創期の爪形文系土器や多縄文系土器が出土している。

普門寺西山遺跡は、美里町の南東部、普門寺山と呼ばれる残丘の南斜面に位置する。尖頭器(写真1)は、ソフトローム層から単独で出土したとされている。

縄文時代前期の遺跡(登所遺跡・南志渡川遺跡・北貝戸遺跡他)

美里町の縄文時代の遺跡は、縄文早期以降数を増すが、前期前葉までの遺跡の多くは少数の縄文土器片や石器が出土した遺跡である。

前期中葉、黒浜式期になると、堅穴住居が造られるようになり、小規模ながらも集落と呼びうる人々の集合体が現れる。町の南部、白石の丘陵上に位置する登所遺跡では、黒浜式期3軒、諸磯b式期6軒の堅穴住居跡が検出されている。



写真1 普門寺西山遺跡出土尖頭器

前期後葉、諸磯式期になると、丘陵部を中心に集落跡の調査例が増加する。そうした集落遺跡は、町の南部の丘陵上に限らず、河川に近い台地へと進出した例もみられる。丘陵上の遺跡としては、白石城跡、登所遺跡、台地上の遺跡は、南志渡川遺跡、北貝戸遺跡があげられる。

南志渡川遺跡は、美里町のほぼ中央を南西～北東に流れる志戸川の右岸のローム台地端部に位置する遺跡である。



写真2 南志渡川遺跡第2-3号住居跡

古墳時代前期の前方後方形周溝墓、方形周溝墓からなる墓域が調査されたことで著名な遺跡であるが、

調査範囲の西半で、縄文時代前期後半、諸磯a～b式期の堅穴住居跡3軒、同時期と思われる堅穴住居跡1軒が調査されている(写真2・3)。

北貝戸遺跡は、志戸川右岸の支流に沿ったローム台地端

部に位置する遺跡で、調査範囲の北西部分で、諸磯a式期末葉～b式期初頭にかけての堅穴住居跡3軒が調査されている。



写真3 南志渡川遺跡第3号住居跡出土深鉢

(美里町教育委員会 池田 匡彦)

神川町 旧石器時代の神川

旧石器時代の遺跡は未確認であるが、石器が5点出土している。いずれも、古墳時代以降の発掘調査で出土したもので、遺構に伴うものではない。

縄文時代の遺跡

神川町の縄文時代の遺跡分布は、神川地区と神泉地区で異なる様相を呈している。

神川地区では、見玉丘陵の一角に集中的に分布している。池田遺跡(大字二ノ宮)は前・中期を中心とする集落遺跡であり、埼玉県重要遺跡に選定されている。遺構に伴うものでないが、早期の押型土器の破片が出土している。丘陵地の他に、扇状地上でも遺跡が確認されている。十二ヶ谷戸17号墳(大字池田)では、墳丘下で縄文時代中期の住居跡が検出されている。

神泉地区では、神川地区に比べて多くの縄文時代の遺跡の調査が行われ、主に下阿久原地内の河岸段丘平坦面を中心に遺跡が分布している。この段丘面の最下段に立地する平遺跡は、縄文時代前期から晩期にかけての集落遺跡である。平遺跡の西に位置する平西遺跡は、平坦面から段丘崖に移行する緩斜面に立地している前期から後期の集落遺跡で、後期の敷石住居が検出されている。



写真1 十二ヶ谷戸17号墳丘下 竪穴住居跡

平遺跡(大字下阿久原)

平遺跡は、神流川によって形成された河岸段丘上に位置し、これまでに7地点(A~G)で発掘調査が行

われている。A~E地点では、中期の竪穴住居跡や後期の敷石住居が検出され、それらに伴う土器や石器類も出土している。

F地点の調査では、見玉地域では少ない縄文時代晩期の竪穴住居跡、配石群、配石土坑、特殊遺構が検出されている。配石群からは、ミニチュア土器や耳飾、石剣が出土し、特殊遺構からもミニチュア土器が出土している。配石群や特殊遺構は、出土した遺物の様相から「祭り」に関わる遺構であった可能性が高い。

本遺跡からは、縄文時代晩期から続く弥生時代前期の埼玉県内でも古い段階に位置付けられる再葬墓が検出されている。埼玉県内の縄文時代から弥生時代への過渡的な時期の墓制を知るうえで重要な遺跡である。



写真2 平遺跡F地点全景



写真3 平遺跡A地点敷石住居跡

(神川町教育委員会 北山 直人)

上里町

はじめに -石器から上里町の縄文人を考える-

町内で人々が生活を始めたのは、今から約14,000年前の縄文時代草創期からである。しかし、これまでの発掘調査では、この時代の建物等は発見されておらず、石器や土器片がわずかに確認されているのみである。そのため、町内における縄文時代の様子は謎に包まれている。

今回の展示では、残された石器類から町内に暮らした縄文の人々について考えてみたい。

有茎尖頭器 -最古の石器-

発掘調査によって発見された、町内最古の人類の痕跡は西福寺西遺跡(大字堤)の有茎尖頭器である(写真1)。槍や鉞の先として利用されたもので、形態から約14,000年前の縄文時代草創期のものであることが判明した。これにより町内における人々の生活は、この時期まで遡ることが明らかになった。



写真1 西福寺西遺跡の有茎尖頭器

石鏃 -旅する黒曜石-



写真2 崖前・田通遺跡の黒曜石製石鏃

大字七本木の崖前遺跡や神保原町の田通遺跡では、黒曜石で作られた石鏃が発見されている(写真2)。これらは矢の先端に装着し、食料となる動物の捕獲に用いられた。黒曜石は、加工によって鋭い刃が得られることが特徴で、長野県和田峠等、限られた場所에서만産出されない鉱物である。そのため、黒曜石の出土は、人々の移動や交流を物語っている。この時期に町内に暮らした人々も他地域の人々と交流をしながら生活していたのである。



写真3 大字五明の打製石斧

打製石斧 -縄文時代の植物栽培を考える-

町内で発見された石器のうち、最も多く見つかったものが打製石斧である。このうち、分銅形石斧(写真3右側6点)は、縄文時代後期に流行したもので、柄を付け、鋏のように利用された。そのため、これらは以前から農具としての利用が想定されてきた。また近年では、各地の遺跡からヒョウタンや大豆等の種子が出土しており、縄文時代には食用植物の栽培が行われていたことが明らかになってきた。町内に暮らした縄文時代の人々もこれら石斧で畑を耕し、植物を育てていたのではないだろうか。

町内の石棒信仰 -縄文時代と現代をつなぐ-

ここまで上里町の縄文時代の資料を紹介してきた。

他地域との交流や植物の栽培等、当時の人々は現代にも通じる生活をしてきたようにも思えてくる。また町内には、縄文時代に信仰された石棒を現在も祀る神社(写真4)がいくつか存在する。必ずしもこれら神社は縄文時代から続くものではなく、後世の人々が偶然見つけた



写真4 神社ご神体の石棒

石棒を神社で祀ったことが真相のようである。しかし、現代の私たちと当時の人々が同じものを信仰している点は興味深く、縄文時代を身近に感じられる貴重な場所といえる。

(上里町教育委員会 林 道義)

深谷市

深谷市は北に利根川、南に荒川という大きな河川が流れ、最南端の江南台地、荒川扇状地である櫛挽台地、利根川の沖積低地である妻沼低地の3つの地形に分けられる。また、江南・櫛挽台地を開析する両河川の支流や谷地が数多くみられ、その付近には多くの人類活動の痕跡が認められる。

深谷市の旧石器時代の遺跡は、細石刃や彫刻刀型石器などがまとまって出土した荒川右岸の江南台地上の白草遺跡や、搔器・削器・局部磨製石斧などの多数の遺物集中ブロックが確認されている北坂遺跡が知られている。ほかにも、櫛挽台地北東部の花小路遺跡や轡羅遺跡などからナイフ形石器が出土している。



写真1 白草遺跡出土石器(写真提供:埼玉県)

深谷市の縄文時代の遺跡は、草創期～晩期までの6期に区分されるすべての時期の遺跡が確認されている。以下、各時期における代表的な遺跡を紹介する。

草創期の遺跡は、爪形文系土器群と多縄文系土器群とを繋ぐ土器群として注目された櫛挽台地上の西谷遺跡をはじめとして、荒川左岸の宮林遺跡や沢口遺跡でも爪形文系土器が発見されている。また、利根川の支流である小山川右岸に位置する石葎A遺跡では、神子柴型石斧が出土し注目されている。

早期の遺跡は、宮林遺跡や江南台地上の百済木遺跡が確認され、押型土器や貝殻状痕土器、燃

糸文系土器が出土している。

前期の遺跡は、沢口遺跡や宮西遺跡、西浦北遺跡で関山式・黒浜式期の集落跡が確認され、櫛挽台地北東部の滝宮遺跡や常盤町東遺跡では諸磯式期の土器が出土している。

中期の遺跡は特に多く、市内全域に分布する。志戸川右岸の台地縁辺部に位置する水窪遺跡や荒川右岸の江南台地縁辺部に位置する上本田遺跡では大規模な環状集落跡が発見されており、勝坂式から加曾利E式までの遺物が多数出土している。また、櫛挽台地の中央付近でも多くの遺跡分布が確認されており、小台遺跡や堂場松原遺跡などでは加曾利E式期の土器が発見されている。

後期の遺跡は、中期に続き広範囲に分布が認められ、集落が低地域でも営まれるようになることが確認されている。妻沼低地の宮ヶ谷戸遺跡や明戸東遺跡では、後期前半の堀之内式を中心とした土器群が発見され、上敷免北遺跡では後期後半の加曾利B式～安行式期の遺物群が多量に発見されている。また、荒川左岸の橋屋遺跡でも上敷免北遺跡と同様に後期後半の遺物群が発見され、遺物の組成も類似する特徴がある。

晩期の遺跡は少なくなるが低地域で散見され、上敷免北遺跡・橋屋遺跡のほか、妻沼低地の上敷免遺跡で当該期の遺物が確認されている。櫛挽台地北端部の原ヶ谷戸遺跡は、台地縁辺部に集落が形成され、後期後半から晩期中葉までの遺物群が出土し、多量の土偶や耳飾り類が発見されたことで注目された遺跡である。(深谷市教育委員会 平野 哲也)



写真2 上本田遺跡の縄文時代中期竪穴住居跡

早稲田大学本庄校地

縄文時代前期～後期の土器

児玉郡内には、浅見山丘陵をはじめ、生野山、山崎山の3つの丘陵があり、早稲田大学本庄校地は浅見山丘陵に所在している。浅見山丘陵には、北から南に浅見山、大久保山、塚本山の三丘が並び、各丘の間は、東から入り込む谷が形成されている。

浅見山丘陵には、縄文時代から歴史時代にかけて多くの遺跡が発見されているが、このなかで大久保山遺跡は、早稲田大学本庄高等学院や校地内グラウンド建設に伴い、1980年から1987年にかけて、早稲田大学本庄文化財調査室により発掘調査が行われた。その結果、縄文時代や古墳時代、奈良・平安時代、中・近世の遺構や遺物が多く発見された。調査の成果は、発掘調査報告書「大久保山I」から「大久保山XI」として刊行されている。

縄文時代の遺構や遺物は、大久保山遺跡II地区とIII地区で見つかった。ここでは、各地区で見つかった遺構や遺物について紹介する。

大久保山遺跡III地区では、縄文時代の竪穴住居跡や土坑が見つかった。なかでも、3軒の竪穴住居跡は、縄文時代前期の諸磯c式と呼ばれる時期のものである。土器を分析すると、時の経過とともに形や文様も変わっていったことがうかがえる。埼玉県内ではこの時期の遺跡が少なく、大変貴重な資料といえる。また、諸磯式と共に、興津式と呼ばれる土器が見つかったことから、ここに住んでいた人々は、東関東の人々ともつながりがあったことが判る。

大久保山遺跡II地区では、縄文時代中期中頃の土坑が発見された。このうちの4基は同じ場所に次々に造られたためか、重なり合った状態で見つかった。3基の土坑からは、形や大きさ、文様がわかる土器が多く見つかった。これらの土器には、1A号土坑の土器のように立体的な装飾が施されたものがあり、甲信地方や関東地方西部で勝坂式と呼ばれる土器と通じる部分がある。その一方で、勝坂式とは趣を異にした土器も多く、特に1C号土坑から見つかった土器は、

群馬県や栃木県などで見つかる土器と共通する部分がある。

1E号土坑は、石を敷き詰めた土坑で、集石土坑と呼ばれている。1A号から1D号までの土坑と比べて一回り大形の土坑である。土坑の底面には熱を受けた痕跡があることから、この場所で調理が行われた可能性が考えられる。

土坑からは形や大きさ、文様が判る土器が多く見つかり、1A号から1D号土坑とよく似た土器が含まれている。また、本庄市の新宮遺跡や、将監塚遺跡、古井戸遺跡から発見された土器も、大久保山遺跡II地区の土器とよく似た特徴をもっている。

大久保山遺跡の中期の土器は、縄文時代の土器編年では、中期中葉から後葉への過渡期にあたる。この時期は、勝坂式土器から加曽利E式土器に移り変わる時期でもあるが、加曽利E式という新しい土器が波及し定着するまでに、各地では地域色豊かな土器が作られていたと考えられる。大久保山遺跡の中期の土器は、そのような状況をよく示す土器のまとまりといえる。

(元早稲田大学考古資料館 細田 勝)



写真1 大久保山遺跡II地区1C号土坑出土土器 勝坂式

児玉・深谷地域の 旧石器・縄文時代の主な遺跡

- ◆ 文化財展示施設
- ①～⑭ 主に展示資料が出土した遺跡

各市町の文化財展示施設

- 上里町**
- ① 上里町立郷土資料館
- 神川町**
- ② 神川町中央公民館 第2展示室
 - ③ 神川町考古的交差点施設 展示室2・3
- 本庄市**
- ④ 日本庄南面銀行遺瓦葺遺構 展示スペース
 - ⑤ 本庄星田町のコミュニティプラザ
 - ⑥ 保原戸一記念館
 - ⑦ 保原戸一記念館
 - ⑧ 文化財展示室 文化財展示コーナー (不定期開催)
- 美里町**
- ⑨ 遺跡の昔屋 考古資料常設展示室
- 深谷市**
- ⑩ 深谷栄一記念館
 - ⑪ 日本遺瓦史料館
 - ⑫ 川本出土文化財管理センター

- 上里町 ① 瓦葺遺跡 ② 窪形遺跡 ③ 石部寺遺跡 ④ 大字五明 ⑤ 南刀古遺跡 ⑥ 本郷下遺跡
- 神川町 ⑦ 瓦葺遺跡 ⑧ 窪形遺跡 ⑨ 石部寺遺跡 ⑩ 十二ヶ谷戸17号横貫石下住居跡 ⑪ 赤田遺跡
- ⑫ 下久保コブナツ跡 ⑬ 平遺跡 A・C・E・F 地区 ⑭ 平遺跡
- 本庄市 ⑮ 三乳山古墳群跡 ⑯ 大久保山遺跡 ⑰ 深谷本庄町遺跡群(嵐山地区) ⑱ 磯の字遺跡 ⑲ 新宮遺跡
- ⑳ 児玉赤土遺跡(西林堂/西地区)
- 美里町 ㉑ 南深谷川遺跡 ㉒ 北谷戸遺跡 ㉓ 庄上土遺跡跡 ㉔ 甘利山遺跡群(嵐山・和泉堂 A～C)
- ⑳ 野井遺跡 ㉕ 笠野山遺跡 ㉖ 赤山遺跡 ㉗ 野井付西山遺跡 ㉘ 川河遺跡
- 深谷市 ㉙ 深谷北遺跡 ㉚ 石部 A 遺跡 ㉛ 北深谷遺跡 ㉜ 花久保遺跡 ㉝ 上高谷北遺跡 ㉞ 朝平東遺跡
- ㉟ 高ヶ谷戸遺跡 ㊱ 小台遺跡 ㊲ 沢村遺跡 ㊳ 磯形遺跡 ㊴ 上本庄遺跡 ㊵ 白濁遺跡
- ⑫ 百瀬木遺跡

